

企画名： シンポジウム「国内原発立地地区の市民運動が抱える困難さと今後の課題」

実施日時： 2012年1月14日 13:00～14:30

実施場所： パシフィコ横浜会議センター 3F 313+314

登壇者：

● 発言者

石丸初美（玄海原発プルサーマル裁判の会）

内藤新吾（日本福音ルーテル稔台教会牧師）

岩田雅一（日本基督教団八戸北伝道所牧師）

● 司会

鈴木伶子（原発問題と取り組むキリスト者ネット共同代表）

参加人数： 70名

文責： 鈴木伶子（原発問題と取り組むキリスト者ネット共同代表）

初めに司会者が開沼博著「フクシマ論」の紹介をした。発題者3人の共通の枠作りを目指したものである。過疎地に原発が作られるとき、中央からの強制ではなく、土地の実力者（知事、地域選出国會議員など）が地域開発、発展の名目で導入する形をとる。交付金、原発従事者の移入などにより地域が活性化されることを味わうと、地域自体が自発的・能動的に原発を求めるようになり、「原発ムラ」ができあがるというプロセスである。

引き続き、3人の原発立地地区で反原発に取り組む市民の発言があった。

石丸初美さんは、市民の反対にもかかわらず玄海原発が地域に設置された経過、プルサーマルを目的とした玄海原発の問題性および危険性を話した。次の世代の生命のためにも、地球環境を危険にさらす玄海原発を止めようと裁判を起こしたが、九州電力は市民の声を聞くどころか、虚偽の上に強引に運転を狙う、その怒りと、苦闘を語った。

内藤新吾さんは、浜岡原発反対運動の経験から、原発立地地区での反対運動は文字通りその地域で生活できなくなる困難をもたらすと話した。現在浜岡原発は運転を中止しているが、堤防を高くすることで大地震に備えられると運転再開を目指す中部電力を強く非難し、原発に依存しなくてもエネルギーは足りることを示した。

岩田雅一さんは、六ヶ所村での廃棄物再処理場反対に取り組んできた立場から、再処理の過程で生み出されるプルトニウムの問題を訴えた。プルトニウムはそれ自体の危険性も高いが、そのようにして生み出されるプルトニウムは核兵器製造に使われるものである。したがって、原発は市民の生活エネルギーとしての必要性という名目が掲げられるが、実際は核武装に繋がるものだと言った。

3人の発言に続き、会場からも原発の危険性を指摘する発言、国家事業としての原発を止めるために、反対運動の連携の必要性を説く発言などがあった。特に印象に残った発言は、キリスト者ネットワー

クという主催団体に期待することは、原発反対がキリスト教の使命であることを言葉化し、教会に訴えていくことが大事だという発言で、今後の大事な課題を示されたと思う。

